

いよいよ今週の日曜日（26日）が「運動会」になりました。学校では、各学年の表現（ダンス）や応援の練習を友達や先生と一緒に頑張ったり、全体練習の中で動きを確認したり、大きな声を出して歌ったりしています。お家でも学校で覚えたことを繰り返し練習している子いるのではないのでしょうか？これだけ頑張っているのですから、体も疲れ、ご自宅ではフラフラになっていることと思います。たくさんの体力を使っていますので、お食事と睡眠をしっかりとって、運動会当日を元気に迎えてほしいと思います。

保護者の皆様のご参観とご声援をよろしくお願い致します。

感じたことから

○「準備された心」

今年のノーベル賞では、坂口志文氏が生理学・医学賞を、北川進氏が化学賞を受賞しました。2人の日本人の方が受賞するとは、すごいですね。日本人として誇らしい気持ちになります。

さて、化学賞を受賞された北川進氏は会見の中で、子どもたちに伝えたい言葉として、細菌学の父と呼ばれているルイ・パスツール（フランス）の言葉をあげていらっしゃいました。それは、次のようなものです。

「子どもたちには難しいかもしれないけど、ルイ・パスツールが『幸運は準備された心にのみ宿る』という名言を残しています。私の今の流れをみたときに、いい先生、友達、学会での付き合いに恵まれました。それは準備された心なんです。ある日突然宝くじを引いて当たったわけじゃありません。いろんな経験を大切（準備された心）にしていくとそれが将来花開く、そう言いたいですね」



北川進 氏

北川氏は、先生や友達、研究を志す仲間といった様々な方とのかかわりを大切にしようとする心が、パスツールの言う『準備された心』となったことを述べているのだと思います。きっと、“先生の教えをしっかりと受け止めようとする心”“熱意をもって仲間と共に研究していこうとする心”が、北川氏の「準備された心」であったのだと思います。

この「準備された心」とは、一つは北川氏に言われるように“人とのかかわり”であると言えるでしょう。ただ、「準備された心」はそればかりではないように思います。

このことに関して、パリ五輪サーフィン日本代表の松田詩野選手は、苦しい時に支えとなった言葉があったといいます。

『『重要なのは“勝つ意欲”よりも、“勝つために準備する意欲”』（アメリカの元プロバスケットボールコーチのボビー・ナイト氏）という言葉を目にしたときに自分の意識が変わりました。勝ちたいという想いは大会に出ているみんなが持っている中で、日々の準備に対する意欲を大切に練習に取り組むことが出来たら、自信をもって大会に臨めるように思い、その言葉が心に響きました。」

子ども達も、こんな姿になりたい、こんな賞を取りたい、という思いはあるでしょう。しかし、そのための苦しい練習には意欲は減退しがちです。だからこそ、苦しい練習や勉強に意欲（勝つために準備する意欲）をもって、日々の努力を積み重ねることが大切なのだと思います。



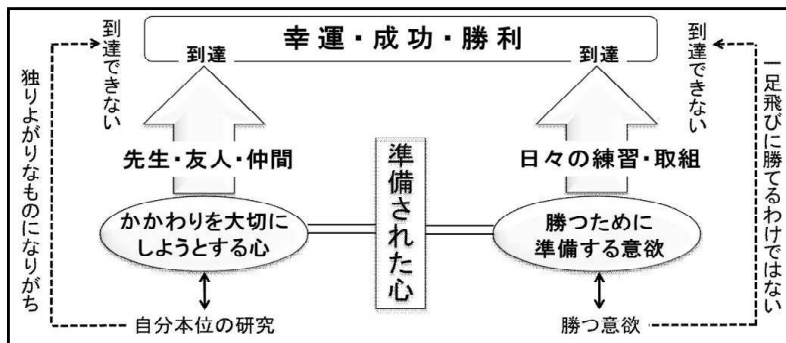
松田詩野 選手

現在、子ども達は、運動会に向けて、「準備された心」の二つの側面から努力を重ねています。

一つは、学校の友達と一緒に応援の練習をしたりダンスの仕方を教え合ったりする「かかわりを大切にしようとする心」です。

もう一つは、学校やお家で自分自身の苦手なことやより高めたいこと（ダンスや走り方等）を繰り返し練習する「勝つために準備する意欲」です。

子ども達は、こうした「準備された心」を精一杯働かせて、運動会ではきっと達成感や満足感を感じることでしょう。



※ ところでこの文章を書きながら、「準備された心」は、本校の建学の精神「至心」の“他者とのかわり”“自分自身を高める”につながっていることを感じました。やはり「至心」は大切です！